

【表面】

生乳需給安定クロスコンプライアンスに係るチェックシート（様式例）

### 1 申請者（酪農経営体）の情報

ア 申請年月日	令和8年5月〇日
イ 申請する補助事業名	○△×□事業 ①
ウ 個体識別情報システムの農家コード (複数牧場がある場合は「、」で区切って全て記載)	0123456789 ②
エ 申請者名(法人の場合は法人名を記載)	農林 太郎 ③
オ 代表者の役職・氏名 (上記と同様の場合は省略可)	
カ 郵便番号	100-8950 ④
キ 住所 (複数牧場がある場合には代表の住所を記載)	東京都千代田区霞が関1丁目2番1号 ⑤

拠出実績のデータと突合するために必要な情報です。誤った内容で記載した場合、拠出金の納付状況の確認を正確に行うことができず、要件を満たしていないと判断される場合がありますのでご注意ください。なお、チェックシートは、事業によっては異なる場合があります。

- ① 対象となる補助事業名を記載してください（正式名称でなくても問題ありませんが、判別できる事業名を記載してください。畜産クラスター事業については施設整備事業か機械導入事業か区別して記載してください。）
- ② 半角10桁で記載してください。
- ③ 姓と名の間は全角スペースを入れて下さい。株式会社、有限会社などは(株)(有)などと略さないでください。
- ④ 半角英数字、ハイフンありで記載してください。
- ⑤ 都道府県名から記載してください。数字は「全角」のアラビア数字としてください。

【表面】

ク 経産牛飼養頭数 (令和7年12月末)	60頭 <b>①</b>
ケ 別表の左欄に掲げる区分に応じ同表の右欄に掲げる月の全取引乳量 (令和7年12月分) <b>②</b>	50,000kg

別表：補助金の申請を行う月ごとの拋出金の実績の確認を行う期間及び全取引乳量を記入する対象となる月

補助事業の申請を行う月	対象期間	全取引乳量を記入する対象となる月
4月から6月まで	前年1月から前年12月まで	前年12月
7月から9月まで	前年4月から当年3月まで	当年3月
10月から12月まで	前年7月から当年6月まで	当年6月
1月から3月まで	前々年10月から前年9月まで	前年9月

注：令和8年1月から3月までに申請を行う場合には、令和7年10月分の全取引乳量を記入すること。

拋出実績のデータと**突合するために必要な情報**です。誤った内容で記載した場合、**拋出金の納付状況の確認を正確に行うことができず、要件を満たしていないと判断される場合があります**のでご注意ください。

- ① 原則、ケで記入する対象となる月の末時点**での経産牛飼養頭数を記入してください。  
※事業により異なる場合があります。
- ② 補助事業の申請を行う月により、記入の対象となる月が異なります。**

**チェックシート中の別表（右図オレンジ枠）を参照し、補助事業の申請を行う月に対応した対象となる月の全取引乳量※を記入してください。**

例えば、令和8年5月に事業申請する場合は、令和7年12月の全取引乳量を記入してください。

**なお、複数牧場がある場合は、合計値を記載してください。**

(※) 全取引乳量は16頁の説明のとおり

### 【指定団体のみに出荷している場合】

#### 2 生産した生乳の取引先

コ  指定生乳生産者団体に全量又は一部を取引

サ  指定生乳生産者団体以外の事業者<sup>※</sup>に全量又は一部を取引

「サ」にチェックした方は、以下の記入欄に取引先事業者名を回答ください。

(複数ある場合は「、」で区切って全て記載してください)

シ **2**

ス  自家加工等<sup>※</sup>に全量又は一部を使用

※自家加工又は地域の六次産業化の取組、子牛哺育を指し、使用量は取引乳量には含めません

**1** 指定団体のみに出荷している場合、**ここだけにチェック**してください。

**2** 指定団体のみに出荷している場合、この欄は**使用**しません。

**3** 自家加工等に取り組んでいる場合は**チェック**してください。

### 【複数の事業者に出荷している場合】 (記載例は指定団体とそれ以外の事業者へ出荷している場合)

#### 2 生産した生乳の取引先

コ  指定生乳生産者団体に全量又は一部を取引

サ  指定生乳生産者団体以外の事業者<sup>※</sup>に全量又は一部を取引

「サ」にチェックした方は、以下の記入欄に取引先事業者名を回答ください。

(複数ある場合は「、」で区切って全て記載してください)

シ **2** ○○農業協同組合連合会、株式会社クロコン、株式会社ノースイ

ス  自家加工等<sup>※</sup>に全量又は一部を使用

※自家加工又は地域の六次産業化の取組、子牛哺育を指し、使用量は取引乳量には含めません

**1** 指定生乳生産者団体とそれ以外の事業者の**両方**に出荷している場合、**「コ」と「サ」**にチェックしてください。

**2** 出荷先を、**指定団体も含めてすべて**記載してください。

**3** 自家加工等に取り組んでいる場合は**チェック**してください。

※地域の六次産業化の取組による生乳販売は、「サ」及び「シ」の取引先事業者<sup>※</sup>に含めず、「ス」自家加工等にのみ含めてください。

## 「拠出実績」のクロコンのチェックシート（対象補助事業①～⑩）

### 【裏面】

#### 3 確認事項（チェックボックスにチェックしてください。）

セ  ① 畜産局長が認定した生乳需給安定化事業に対して、当該事業を運営管理する認定運営団体等が定める単価や拠出方法等に従い、別表の左欄に掲げる区分に応じ同表の中欄に掲げる対象期間\*の自らの全取引乳量（複数の取引先がある場合には全ての取引先への取引乳量の合計）に応じた拠出金の納付を行いました。

※ 令和8年1月から3月までに申請を行う場合には令和7年10月。令和8年4月から12月までに申請を行う場合には令和7年10月から別表の左欄に掲げる区分に応じ同表の右欄に掲げる全取引乳量を記入する対象となる月までの期間

ソ  ② 以下の（1）～（3）の内容について、同意します。

（1）農林水産省や（独）農畜産業振興機構、地方公共団体・団体・事業者（同機構が実施する補助事業に限る。）であって生乳需給安定クロスコンプライアンスの運用上で必要な者からの求めがあった場合には、生乳の生産量、自ら取引した数量及び経産牛飼養頭数が分かる資料、全ての取引乳量に基づき拠出金を納付していることが分かる伝票（乳代精算書、領収書、請求書等）を提出すること。

（2）農林水産省及び生乳需給安定クロスコンプライアンスの対象補助事業の実施に携わる団体・事業者が、

- ① 本チェックシートで申告された情報を取得すること。
- ② 生乳需給安定クロスコンプライアンスの実施に必要な範囲において本チェックシートで申告された情報を利用すること。
- ③ 生乳需給安定化事業を運営管理する認定運営団体等やこの団体等に拠出金の納付を行う生乳流通事業者及び関係団体に対して拠出金の納付実績の確認を目的として個人情報を提供すること。

（3）生乳需給安定クロスコンプライアンスの要件の違反があった場合には、補助金の返還を行うこと。

① 拠出金の納付を行っているか、確認事項の記載内容を申請者自身で確認した上でチェックしてください。  
 なお、事業者が生産者に代わって拠出金を負担している場合であって、その負担されている分について確認できる場合には、ここにチェックしても問題ありません。

② 内容を申請者自身で確認した上で、チェックしてください。

（1）については、要件を満たすか確認するために、申請者に拠出金の納付状況を確認するための資料を求めることがあり、これに応じいただく旨を同意していただくものです。

（2）については、生乳需給安定クロスコンプライアンスの実施に必要な範囲において、提出いただく個人情報を取得・利用することについて、同意していただくものです。

（3）については、生乳需給安定クロスコンプライアンスの要件を満たしていない場合、補助金の交付要件を満たしていないこととなり、その結果として補助金の返還となる場合があることを承知していただくものです。

**チェックリストの内容は補助事業の申請様式の一部となっている場合があります**